

ALIC/USMEF 食肉需給情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と食肉需給情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本、米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として相互国において、原則として毎年度開催しており、今回で通算 24 回目となります。

1 日 時：平成 21 年 3 月 5 日（木）

2 場 所：ALIC 本部

3 参加者

ALIC 木下理事長、井田総括理事、太田理事、神浦食肉生産流通部長、鈴木食肉生産流通部審査役、長谷川調査情報部長

USMEF フィリップ・M・セング会長
ジョエル・ハガード首席副会長
グレゴリー・ヘインズ ジャパン・ディレクター
原田晋シニア・ディレクター

4 会議内容

木下理事長とセング会長の挨拶の後、ALIC から日本の食肉需給について、USMEF から米国の食肉需給等について説明し、双方の意見交換を行った。

<ALIC からの食肉需給についての説明概要>

日本の直近の食肉消費に占める牛肉の消費動向、今後の生産予測等について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの食肉需給についての説明概要>

<総論>

- ・ 金融危機は畜産物の世界的な需要を減少させている。
- ・ 飼料価格の高騰により、牛肉、豚肉、鶏肉すべての供給が減少
- ・ 生産が減少しても価格が下落するというかつてない厳しい状況
- ・ 景気悪化で外食産業の売上が減少しており、牛肉への影響が大きい。
- ・ 輸出に影響を与える為替相場の動向を注視している。

<牛肉>

- ・ 肉用経産牛の飼養頭数は拡大する要因がなく、3年連続で前年を下回る。2009年は、前年より2.3%減少し、1963年以来最も少ない頭数となる見込み。
- ・ フィードロットの飼養頭数は、2009年2月現在1,130万頭で、前年同月比6%減少
- ・ 2009年の肥育牛の年間平均生産者販売価格は、供給量が減少するにもかかわらず前年を下回る見込み
- ・ 牛肉の輸出は、日本及び韓国以外はBSE発生前の水準に回復。日本及び韓国は依然低い水準
- ・ 世界的な需要の停滞で卸売価格は前年を下回る水準。特にロイン系（リブアイロール、ストリップロイン、テンダーロイン）の下落が顕著

<豚肉>

- ・ 需要の減少による価格の低下を防ぐため、生産を抑える動き
- ・ 肥育豚価格は、低下しており、生産コストを賄いきれない。
- ・ 豚肉の輸出量は、生産量の25%に当たり、輸出依存度が高まっている。最大の輸出先である日本のマーケットは非常に重要である。
- ・ 豚肉輸出量は近年一貫して増加してきたものの、2009年は前年を下回る見込みで、これは17年ぶりのこと
- ・ 肥育豚価格が低迷しているが、例年春先に価格が上昇する中、いつ上昇するか注目している。

お問い合わせ先

食肉生産流通部食肉需給課

藤野、山崎

03-3583-1153